

## vol.1

選書者：永田宏和（デザイン・クリエイティブセンター神戸 センター長）

### ●『地震イツモノート』

防災教育の専門家としての道を歩み始めるきっかけとなった一冊。次世代を担う子どもたちを対象とした防災教育プログラムの開発のために行った被災者へのインタビュー記録から生まれた本。私はこの本の企画プロデュースを担当しました。本のイラストを描いてくれたのが、その後、KIITO や私が設立した NPO 法人プラス・アーツのプロジェクトのブランディングやデザインを担当して下さることになったアートディレクターの寄藤文平さん。防災＋クリエイティブの様々な取組みの起点となった思い出深い書籍です。

### ●『やっかいな問題はみんなで解く』

KIITO がシリーズで開催している＋クリエイティブゼミの「リサーチャー養成編」を共同主宰する文化人類学者の山崎吾郎さんとの出会いにより、共同執筆に参加することになった「社会課題解決」をテーマにした本。自分にとって長年の悲願だった、KIITO の活動理念「風、水、土、そして種の話」や強い種（活動）を作るノウハウ「不完全プランニング」「＋クリエイティブ」の考えを世間に広く紹介することがようやく実現できた感慨深い一冊です。活動理念の紹介にとどまらず、その有効性を証明するべくいくつかの KIITO を代表するプロジェクトを詳しく紹介しています。

### ●『エモーショナルブランディング～こころに響くブランド戦略』

8年間勤めたゼネコンを辞めて独立した頃出会った一冊。当時は学生時代の専門領域を生かしたまちづくりコンサルタントの仕事に加え、不動産業界で働く親友とのつながりから店舗や建築のプロデュースの仕事をしていました。全くの門外漢だったそのプロデュース業のなかで「ブランディング」に携わり始めた時期にこの本に出会い多くのことを学びました。人の感情に訴えかけるブランディング手法（＝エモーショナルブランディング）は、20年以上経った今も KIITO やプラス・アーツの様々なプロジェクトで生かされています。

### ●『完訳 7つの習慣～人格主義の回復』

コヴィー博士によって30年以上前に執筆された成功者たちの共通点を観察し、その原則を「7つの習慣」としてまとめた人生哲学の名著。私がこの本を手にとったのは、読書にふける毎日を送っていた2015年頃でした。高い成果をあげ、結果を出し続ける人の習慣を7つに分類してまとめられた本ですが、単なるビジネス書の域を超え、普遍的で人生を変えるぐらいの力があり、私にとってはバイブルです。特に、第6の習慣である「シナジーを創り出す」には、グループワークをするうえでの大切な心構えが詳しく書かれており、2016年以降、私が担当するゼミやワークショップの参加者たちには必ず紹介しています。

●『クリエイティブ・マインドセット～想像力好奇心・勇気が目覚める驚異の思考法～』

この本が刊行された2014年に、当時IDEO Tokyoに在籍されていたデザイナーの石川俊祐さんにいただいて出会った一冊。IDEOの創業者デイヴィッド・ケリーとその弟で共同経営者のトム・ケリーによって書かれた本で、「デザイン思考」のノウハウがびっしり詰まっています。特に素晴らしいのはその事例の数々。実際に「IDEO」で実践された多くのプロジェクトが紹介されていて、そこからから多くのことを学びました。その秀逸な事例のいくつかをKIITOのゼミの参加者たちに「画期的な先進事例調査によって生み出されたイノベーション」として紹介しています。

●『クリエイティブ・シンキング入門』

「クリエイティビティとは何か」を説明するのではなく、「どうしたらクリエイティブになれるか」を解説した本。刊行されたのは2013年だが、実際にこの本に出合ったのはもう少し後だったように記憶しています。「デザイン思考」や「クリエイティブ・シンキング」にかなり傾倒していた時期に、これらのワードが入っている本を片っ端から読み漁っていて、そのなかで見つけました。この本の特徴は、たくさんの事例と豊富なトレーニング問題が掲載されていることで、「クリエイティブ・シンキング」をものにしたいと思っている方にはとてもおススメの入門書です。

●『知の英断（ジミー・カーター、フェルナンド・カルドーゾ、グロ・ハーレム・ブルントラント、メアリー・ロビンソン、マルッティ・アハティサーリ、リチャード・ブランソン）』

この本は、国内外の出張が多い私が、空港にある本屋で偶然みつけて購入しました。大ベストセラーになった『知の逆転』に次ぐ第二弾の書籍ですが、社会課題解決分野で日々活動している私にとってはどちらかというと、この『知の英断』の方が学ぶべきことは多かった。この本が扱う社会課題は、戦争や核といった世界規模の若干スケールアウトした問題がテーマにはなっているが、現代における世界最高峰の「知の実践者」たちがその解決策について答えている読み応えのある一冊となっています。